

10月定例会議会特集

根室市議会10月定例会議会は25日に代表質問、26日に代表質問と一般質問を行いました。今回の市議団ニュースでは、日本共産党の橋本竜一議員の代表質問と、鈴木一彦議員の一般質問の主な内容を紹介します。

橋本竜一議員の代表質問

橋本議員は、「子育て支援・医療・福祉の充実について」の質問項目の中で、0〜2歳児の保育料の減免制度について質問しました。

今回の所信表明で市長は、0〜2歳児の保育料の減免制度を「子育て応援7つの無償化」の一つとして新たに掲げられました。ただ、0〜2歳児は、保育所・認定こども園でも職員配置基準などの要因から定員が限られており、市内では認可外保育施設等が小さな子どもを預かるニーズに応え、役割を果たしてききました。橋本議員は、このことを踏まえ、市が新たに創設しようとしている減免制度では、国の「幼児教育・保育無償化」と同様に、0〜2歳児を預かる認可外保育施設等に

ついても助成の対象とすべきだとして、市長の見解を問いました。

市長は、今回、所信表明で掲げた0〜2歳児の保育料減免制度では、認可外保育施設等は対象としていないが、今後、認可外保育施設等を利用する子育て世帯に対する支援策について、先進市の状況を参考にし、調査・研究していきたいと答えました。

この質問項目の中では、他に、「障がい者支援施設をはじめとする福祉関連施設の整備の方向性について」「地域医療等の推進について」など質問しています。

橋本議員は、さらに、「平和に関する諸問題について」の質問項目の中で、戦争遺産に対する市行政の考え方について質問しました。

本市には、戦時中に旧日本軍が構築したトーチカや塹壕跡、飛行場跡や掩体壕など、いわゆる「戦争遺産」と呼ぶべき史跡が残されています。また、その他未だ十分な調査がなされていない遺構等も残されていると思われ、年近い年月の中で自然劣化が進み、あるいは再生可能エネルギー関連施設の開発等により、いずれ無くなってしまうかねません。橋本議員は、こうした「戦争遺産」に対し調査・研究を進め、保全する方策について検討すること、そして「戦争遺産」が伝える当時の記憶をどのような形で市民の学びに活用し、構成に引きつけていくのかということについて、市として基本的な考え方を定めるべきだとして市長の見解を求めました。

市長は、戦後80年近くの歳月が流れ、戦争や空襲の記憶が薄れているなかで、残された「戦争遺産」は劣化が進んでいるが、昨年、新たに昆布盛地区でトーチカが確認さ

れたことから、戦争の事実を後世に伝えていく上でこれら史跡の保存は重要であると再認識したところであり、教育委員会とも連携しながら方向性について検討を進めたいと答えました。

この質問項目の中では、他に、「土地利用規制法』について」など質問しています。

橋本議員のその他の質問項目は、「物価高・コロナ対策について」「産業・経済対策について」「教育・文化について」「防災・減災対策について」「領土問題について」等です。

鈴木一彦議員の一般質問

鈴木議員は、「市長の『国葬』出席について」質問しました。

鈴木議員は、今回の安倍元首相の「国葬」について、実施の法的根拠がないこと、憲法で規定されている「内心の自由」や「法の下の平等」に違反するなどの理由で、国民の約6割がその実施について反対していたにも

関わらず、岸田政権が強行したことを批判。その「国葬」に、石垣市長が公務として出席したことは問題であるとして、市長の「国葬」に対する見解と、出席した理由と根拠について質問しました。

市長は、「国葬」に対して様々な意見があることは承知しているが、この度の「国葬」が国内外の安倍元首相に縁があり、お別れをしたい方の、改めての弔意を示す機会であったと答弁。また、出席の理由等については、案内が北方領土返還要求運動原点の地の市長として、また、北隣協の会長として届いたものと受け止め、出席したこと。これまでも、北方領土問題では尽力された方の葬儀等には極力出席したことなどを理由として挙げました。

来週の市議団ニュースはお休みします。